

還暦の節目を祝う実年式 3年ぶりに

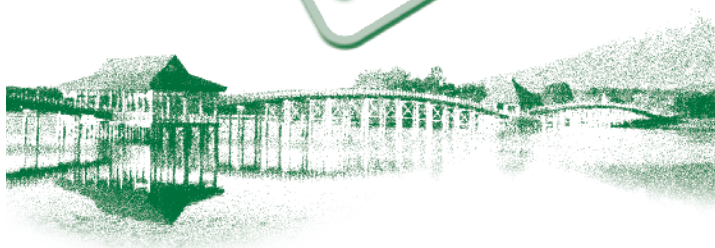
2月11日（土）、今年度に還暦を迎えた町民らを祝う「実年式」が町国際交流会館で開催され、参加者たちは久しぶりの再会を喜んでいました。

新型コロナウイルスの影響で、式典は3年ぶりの開催。1962年度生まれの町出身者173人のうち28人が出席しました。

式典に先立ち、厄払いと健康長寿を祈願する神事が行われ、祭壇に一人一人玉串を奉納しました。式典では、相川町長が「社会や家族のために努力してこられた皆さんの知識と経験を生かし、これからも生きがいのある人生を送っていただきたい」とあいさつしました。



△町民歌を心の中で歌う参加者たち



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

津軽りんご市場町へ水害義援金を寄附

株式会社津軽りんご市場は2月24日（金）、町に対し昨年8月に発生した水害への義援金として100万円を寄附しました。同社の八木橋宏弥社長は「弊社は鶴田町のりんご生産量の半分以上を扱っているので何か役に立ちたい」と、売り上げの一部を義援金として寄附されました。

贈られた義援金は、水害時等に活躍する排水用の小型動力ポンプ購入費に充てられます。



△相川町長へ目録を手渡す八木橋社長（右から2番目）と津軽りんご市場の社員ら

町社協へ車いす等を寄贈

ハイコンポーネンツ青森株式会社（平石彰彦代表取締役）は2月27日（月）、鶴田町社会福祉協議会へ車いす2台と歩行器2台を寄贈しました。

同社による寄贈は平成24年度から毎年行われており、今回で11回目となります。このほかにも同社は児童養護施設への寄付などの地域貢献活動を行っています。



△町社協へ車いすなどを寄贈したハイコンポーネンツ青森の社員

農業大学 シャインマスカット栽培を学ぶ

町が主催する「農業大学講座」が2月13日、14日に開講されました。

この講座は町の基幹産業である農業に関する知識を得ることで、生産技術の向上や経営の安定を図ってもらう目的で、毎年行っています。

講座では西北地域県民局の乙部さんが講師となり、シャインマスカット栽培の初歩を学ぶ勉強会が行われました。このなかで、乙部さんは全国的に人気の高いシャインマスカットは、町特産のスチューベンが親の親に当たる交配種で、病気に強い品種であるなどを紹介していました。

このほか、今年から始まるインボイス制度やりんご高密度栽培の現状などの講義が行われ、参加した町民は講義の疑問点などを質問するなど、意欲的に講義に臨んでいました



△シャインマスカットについて学ぶ受講者たち



①中野さんの雪室りんご ②雪室りんごを掘り出す児童と中野さん
③掘り出したばかりの雪室りんごを味わう児童ら

ひんやりシャキシャキ 雪室りんごを味わう

2月22日（水）、授業でりんごについて学んでいる鶴田小学校の5年生30人が町農家の中野光彦さんの自宅敷地内で雪室りんごの掘り起こしを体験しました。

中野さんは20年以上前から地元児童のために農業体験の場を提供しており、雪室りんごの掘り起こし体験は17年前から行っています。

児童たちはスコップを使い、雪室から「葉取らずサンふじ」や「こうこう」など3種類のりんごを掘り出しました。掘り出したりんごを試食した児童らは「シャキシャキしておいしい」「初めて食べたけど、つめたくて甘い」など雪の恵みを体験していました。

中野さんは「雪室は先人の知恵。雪は大変なだけでなく様々な恵みを与えてくれる」と児童らに話していました。



Vol.52 (筆：川口翔大)

以前、鶴田町民ライブラリーでインタビューさせていただいた、中野光彦さんが鶴田小学校5年生の選択授業の一環で雪室りんごの掘り起こし体験を実施されるということで、お手伝いに行ってきました！子供たちは楽しそうに雪室を掘り返していました。

掘り起こした後はその場で子供たちと一緒に雪室りんごを試食。雪室から出したばかりのりんごを食べたのは初めてだったのですが、おいしさに感動しました。湿度が高く、凍ってしまわないけれどキンキンに冷えたりんごはシャーベットを食べているかのような贅沢感がある！決して凍っているわけではないのですが…青森県民の僕がこんなに感動するのだから、県外の人にも感動すると思うんですね。いつか県外の人に体験ツアーを企画してみようかな！



△中野さんが雪室りんごについて子どもたちに解説

川口さんの SNS



Twitter



facebook

地域おこし協力隊の活動内容は、SNS・町ホームページでも確認することができます。